



一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

12月15日北京で、「対立から共生へ——小松昭夫の「和の文化」の理念」と実践出版記念会が開催されました。風が強かったため、心配されたPM2・5(微小粒子状物質)による大気汚染もなく、からりとした青空に迎えられての出版記念会になりました。

災い!!三重苦に火をつけ II転じて福に



書道家・張分緒氏が小松代表に、書「宏揚和諧精神」を贈呈

『対立から共生へ』

出版記念会開催@北京



孟白社長



从对立走向共生
—小松先生の「和の文化」の理念と実践



魏亞玲理事

戦後責任

小松昭夫代表がこれまでに発表した文章、講演、メディアに掲載された記事、及び小松氏と著者の張可喜氏との交流を基に、小松代表が提唱する「和の文化」の理念と実践を紹介します。

日本側の参加者は他に、人間自然科学研究所の磯江公博監事、KOMATSU KOREAの尹熙竣理事、八雲志人館の寺戸良信でした。

会場は北京市中心部、長安街にある高層ビルの長富宮飯店（ホテルニューオータニ）。小松電機産業・人間自然科学研究所の小松昭夫代表、北京・学苑出版社の孟白社長、著者の元新華社世界問題研究センター研究員の張可喜氏、共著者の魏亞玲・人間自然科学研究所理事、書道家の張文緒氏、東方心理学首創者・馬一友氏はじめ目中の関係者70名ほどが出席しました。

して、世界平和のために活動されていることに大変敬服しています。小松先生は、21世紀において稀な理想主義者です。彼は平和事業の将来の見通しや効果についてあまり気にしていませんでした。

続いて、小松昭夫代表が挨拶し、「今年は第2次世界大戦終結70周年の特別な年。私は8月に盧溝橋抗日戦争記念館、そして一昨日の12月13日に南京大虐殺犠牲者記念館から招待を受け、公祭式典（国家追悼式）に出席してきました。22年前に、高速シートシャッター『門番』を開発し、日本の市場を作り、世界展開し、ニュービジネス賞をもらつた時の会合で、当時、新華社の記者だった張可喜先生と初めて出会いました。日本の歴史について、いろんな問題が出ています。問題の山積は災いです。この災いという文字は、三重苦の下に火がある。三重苦に火をつけると、災い転じて福になります。小松先生は、21世紀においてほしいという危機感がある歴史問題について研究を始めました。



小松昭夫代表

次に、小松電機産業と人間自然科学研究所のあゆみを紹介する映像が上映されました。小松代表が提唱する「和の文化」の理念の形成過程、平和事業化の活動と構想を紹介。「小松昭夫氏は島根県の出身で、1973年に小松電機産業株式会社、1994年に人間自然科学研究所を創設し、和諧精神を発揚、戦後責任の履行と、対立から共生へと向かう『和の文化』の理念を唱えました。長年花、『趣意書』の読み上げ及び寄付などの活動を続けており、その足取りは中国、韓国、ロシアなどのアジア隣国のはか複数の欧米諸国にまで及んでいます」と説明しました。

出版記念会で、魏理事は、小松代表の「戦後責任論」に言及。「戦争責任は戦争を未然に防げなかつた戦前責任、戦時責任そして戦後責任に分けることができる。戦後責任とは、戦争へと向かつた背景、戦闘行為及び現代社会の問題を調査・研究し、その成果を、二度と戦争を発動せず、恒久平和を創造するための資源とする」と紹介し、「小松氏は、日本は戦後責任を果たしていないと考えている」と語りました。

これについて張氏は、「小松先生の『戦後責任』論は歴史の流れに一致し、日本の歴史認識問題の解決のために正しい思考を与えている。『戦後責任』を履行し、『和の文化』の理念を実践してようやく、東アジア諸国に平和的共存、協力・ウインウインを実現させることができること」という見方を示しました。



張可喜研究員

最後に、著者の張可喜氏が「小松先生と知り合った時から、その人柄や世界観について素晴らしいものを感じてきました。素晴らしい経営者であると同時に、偉大な平和活動家です。その平和理念を中国の皆さんに紹介したいと、魏さんと一緒に分担して書きました。この本を書いてほしいという危機感があるからです」と、本書執筆の経緯について話しました。

小松昭夫の「和の文化」の理念と実践は、2016年3月に、日本語版、韓国語版が刊行される予定になっています。

（寺戸良信）

（後記）
「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を基礎に発信しています。
ご投稿はメール、ファックスで